



1. 梁川校舎の四季を描いた「黒板アート」下で、記念撮影する梁川高校 OB/2. 体育館で歴代アルバムのスライドショー。「こんな時もあったなあ…」としみじみ鑑賞 /3. 図書室で除籍図書の譲渡会。思い出の1冊にまた出会う /4. 前日開催された「芸術鑑賞講座」。合同演奏で音楽を存分に楽しむ！

「校舎とお別れ 思い出いつまでも」

11月2日㊥、伊達高校梁川校舎にて「ホームカミングデー」が開催されました。令和7年3月で閉校舎になるため、別れを惜しむ機会として企画された本イベント。校舎内をスタンプラリーコースに沿って見学、除籍図書の譲渡会など、楽しめる要素が盛りだくさん。当日は約280人が訪れ、校舎の変わったところ、変わらないところを発見しながら当時を懐かしむ人の姿が多く見られました。在校生の佐藤百華さんは「先輩たちがたくさん来てくれて良かったです。機会を作ってくれてありがとうと言ってもらえました」と話しました。



市長コラム 第72回
「つなぐ」

須田博行

過去の
コラム



第36回市町村対抗ふくしま駅伝は、去る11月17日、白河市陸上競技場から福島県庁までの96・3キロ、16区間で、ふるさとの思いをタスキに込めて健脚が競われました。当日の最高気温は24度を記録し、この時期としては異常な暑さとなりましたが、伊達市チームは全員全力でタスキをつなぎ、昨年より大きく順位を上げ見事「敢闘賞」を受賞しました。市民に元氣と感動を与えてくれた選手の皆さん、常に選手を励まし支え続けた監督、コーチ、スポーツ関係者、そして、ご家族の皆さんに心から御礼を申し上げます。さて、つなぐといえば、サッカーやラグビー、バレーボール、バスケットボールなどでのパスを「つなぐ」。また、野球やソフトボールでの打線を「つなぐ」など、球技などのスポーツによく使われる言葉です。

先日のMLBワールドシリーズでは、大谷翔平選手や山本由伸選手が所属するドジャースが優勝しました。ドジャースとヤンキースを比べたときに、ヤンキースはホームランを打って点数を入れていく派手さがありますが、ドジャースはプレーをつないで点を取っていったのが印象的で、それが優勝の要因ともいわれています。特に大谷選手は、けがを押して出場し続け、相当の痛みをこらえながらも「今できることを全力で取り組む」としてチームのために「つなぐ」ことに徹していました。それは、ふくしま駅伝の伊達市チームも同じで、季節外れの暑さの中で普段の走りができなかった選手もいたと思いますが、チーム全員の汗と想いがしみ込んだタスキを「つなぐ」ために、一人一人が「今できることを全力で取り組んだ」結果が、敢闘賞であり、来年に向けてしっかりとタスキがつけられたのだと思います。

改めて、選手をはじめ関係者の皆さんに心から感謝します。ありがとうございました。